咲くさくら坂

社会福祉法人 発足記念号

第002号
平成30年４月３０日発行
発行：社会福祉法人
長いスプーン
秋田県湯沢市皆瀬字桜坂17番地
☎0183-46-2064
編集： 広報部

特定非営利活動法人　長いスプーンは、平成30年4月1日より、『社会福祉法人　長いスプーン』として新たに歩み始めました。特定非営利活動法人として10年間、障がいのある方一人ひとりが地域社会で安心・安全に暮らすことができるよう、ただひたすらに努めて参りました。これまで積み上げてきた福祉サービスの事業を益々発展させ、地域の方々をはじめ、各関係機関、ご支援ご協力いただいている皆様とのつながりを深め、今後も精進いたして参ります。『社会福祉法人　長いスプーン』を宜しくお願いいたします。

ー目次ー

P2　理事長挨拶
P3－4　祝辞
P4－5　親睦会の様子
P6－7　工房くまごろうの活動について
P7　グループホームカメラーデンの暮らし
P8　カメラーデンメンバー紹介　・　各種お知らせ

善意ありがとうございます

《寄付》
児玉　浩己　様（北海道）

《寄贈》
六澤　恒雄　様（埼玉県）野菜
樫寅　様（茨城県）　鮮魚　鰤

理事長挨拶

理事長　泰松　浩洋

「特定非営利活動法人　長いスプーン」は、平成一九年に知的障がいのある人々が暮らす「グループホーム　カメラーデン」を、平成二四年には「特定相談支援　カメラーデン相談支援事業所」を開設、平成二五年には働く場として多機能型事業所（就労継続支援A型、B型）「工房くまごろう」を設立し、障害福祉サービス事業所として地域で活動してきました。そして、障がいある人々が、一市民として暮らすことができるように自立生活に向けて日々支援訓練し、現在に至っています。そして十年の時を経て今年4月より、「社会福祉法人　長いスプーン」として新たにスタートいたすことになりました。

障がい者をとりまく環境は依然として厳しく、グループホームは不足し、作業所での工賃はわずかばかりで、個々それぞれの持つ能力に見合った仕事が得られているのかといえば、そのほとんどが選択肢のない単純作業でしかありません。この地域に暮らす在宅、グループホームあるいは入所施設で暮らす障がい者の多くは、少しの支援があれば地域で生活し、喜びを見出す作業仕事に就くことも可能でしょう。障がい者が自立して暮らすことができるグループホームや働く場がもっとあれば、入所施設や病院から街に出ることも容易になるのではないでしょうか。障がいある人々もない人々もあたり前の隣人として生活することで、差別や偏見がなくなり、地域が明るく互いに支え合うことのできる社会になるに違いありません。就労継続支援A型、就労継続支援B型で作業する人々が大勢集まった時には大きな労働力となるでしょう。障がい者一人一人と向き合い、ことばに耳を傾けてみれば、彼らの持っている独自の時間とかリズムあるいは考え方は、現代社会が失ってきた貴重で価値あるものであることに気づきます。障がい者の持つそれらは「ゆっくりリズム」という表現にふさわしいもので、競い合いではない共生共助の世界がそこにはあるといえましょう。

障害者自立支援法から、それに続く障害者総合支援法の理念は、入所施設や病院から街へ、隔離から共生へ、制度の谷間にいる在宅の全ての障がい者を受け入れ、彼らが自由に安全に暮らすことができる社会を保障することにあります。また、この理念は、超高齢化時代を迎えている我々の社会を支える根本的理念でもあるでしょう。住み慣れた生まれ故郷の自然の中で日常を暮らす、という共生社会を支える事業こそ、我々の目指すものです。障がい者が安心して生活する場所を提供し、自分のリズムで働きながら社会復帰を目指せるように支援して参ります。

これまで「特定非営利活動法人　長いスプーン」を支援してくださった方々に心より御礼を申し上げますと同時に、新たな「社会福祉法人長いスプーン」の運営に全力を尽くして参りたいと思っております。

祝辞

「長いスプーン」の長～い道のり

帯広畜産大学名誉教授
酪農学園大学 酪農学部 食品科学科
食品栄養機能化学研究室 教授
中野　益男

今からちょうど四十年前、ドイツ・フランクフルト近郊にあるシュタイナー共同体の一つである農場を訪ねた時のことでした。心に傷を負った人、障がいを持った人、その人たちを支える人たちと一緒に昼食をいただきました。そこで目にした光景は、当時の私にとっては衝撃的なものでした。すべての人たちが「生命の宿る食べ物」、「作り手の精神が込められた食べ物」に心から感謝している姿でした。彼らの満ち足りた顔は光り輝いていました。

ルドルフ・シュタイナーは一九〇〇年前後に活躍したドイツの思想家です。学校、病院、農場、その他諸々の施設を創り上げ、現在もその活動は世界中で受け継がれています。彼は「生命が宿る食べ物とは、自然の摂理を冒さぬ調和のとれた食の恵みに作り手が精神を込めたものである。」と説いています。また最後の訓話で「キャベツをいくら煮ても肉にはなりません。牛は草を食べて肉になります。牛が肉を食べると狂います。」と、今日私たちの中で起こっている問題を予言していました。狂牛病が世界中を恐怖に陥れた一〇〇年も前のことです。

ドイツの民話に「地獄の罪人は長いスプーンを持たされ、そのスプーンを一人で持って我先に食べようとするので、スプーンが長すぎておいしいスープを口にすることができない。片や天国では同じ長いスプーンを皆で持って相手の口に運んでやるので、温かいスープを口にして皆が満たされる。」というのがあります。皆瀬桜坂の「長いスプーン」の暮しは、天国のスプーンなのです。魂の宿る食べ物、生命と精神のこもった木工品を共同で創り上げている限り社会福祉法人「長いスプーン」は生き続けます。志ある若者たちが秋田から竜神の渦巻きとなり、全国各地の人々を強い力で吸い寄せることでしょう。シュタイナーの竜神渦巻きは皆瀬桜坂にあります（います）よ。

「長いスプーン」は天国仕様のスプーンであり続けてくださることをお祈りしています。

中野先生は『長いスプーン』の名づけ親であり、十年間特定非営利活動法人の社員として支援してくださいました。

社会福祉法人長いスプーン設立を祝って

社会福祉法人　グリーンローズ理事長
後藤　進

この時代を考えた時、いつも私はどこに立っているのだろうと考えてしまいます。歴史の中で、人間が目ざした方向に向かっているのだろうか？そもそも人間が目ざす方向というものはどこなのだろうか？人それぞれに目ざす方向に違いはありながら、おおよそうなづける方向とはどんなものだろうか？

社会の不条理が、なくなっていく方向については、私はうなづけると考えています。しかし、世界を見渡すと、あまりの不条理さが跋扈していて不思議な思いにとらわれます。ひとりの人間が生まれ死ぬまで、社会の不条理さに気づき、不条理について思いを巡らし、この不条理さをなくしていくにはどうすればいいのか、考え続けます。多くの人間は、闘い、敗北したり、あきらめたり、身を潜めたり、裏切ったり、傷つきながら倒れていったように思います。私は、そうした忸怩たる想いを感じていた最中に、泰松浩洋先生に出会いました。そこには、社会の中で、支援を必要としている人々に手を差し伸べながら、その中の不条理に心砕き、少しでも不条理からそうでないものに向かおうとする泰松先生がいたのです。

泰松先生は、そうした考えが少しでも社会の中に浸透するように、社会福祉法人を立ち上げようと長い時間を費やしてこられました。今、やっと「社会福祉法人　長いスプーン」が認められる地点に立ちました。このことは大いに祝福されなければなりません。しかし、それは出発点なのです。さらにしかしです、泰松先生は出発点とはいえど、長く実績をつみ重ねてこられました。利用者の方々の質の高い生活、そしてそれを保証していく工房や食品作りへの情熱など、こうした作業を「ＮＰＯ法人長いスプーン」として粘り強く行ってきました。まさしく、支援を必要としている人々と一緒に作り上げてこられたのです。それこそ社会福祉法人の理念です。

しかし、福祉の世界も様々な不条理から逃れられていません。それでも「利用者の方々とともに」の想いは、未だ残る差別や偏見に晒されながら、前に進む他ありません。その想いの大きさや不条理への飽くなき挑戦を、私は泰松先生とこの法人に学びながら、共に歩みたいと願っています。

そして最後に、この想いが新しい若き人々に受け継がれますように。

泰松浩洋理事長（熊さん）との邂逅

理事　阿部　隆
阿部耳鼻咽喉科医院長
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医

障がい者支援のＮＰＯ法人・長いスプーン設立から苦節十年、悲願であった社会福祉法人の認可を得た。経済的に厳しかったこの十年間、殆ど無給と無休でＮＰＯ法人をリードしてきた熊さんと由紀子夫人に心からお祝いをお申し上げたい。私はＮＰＯ法人の設立メンバーではあるが、その活動に直接的に関わってきた訳ではなく、サポーターとして熊さんを傍らで見守ってきただけである。今回は、出会ってから十五年の私から見た熊さんの人となりと彼が社会福祉法人を目指した原点を推測を含めて記してみたい。

根回しが下手で、小さな妥協も許さず、正論を言葉にして真っ直ぐに行動する熊さんについて行けず離れて行った昔の仲間が少なくない中で、私と今は亡き俵谷勉先輩（勉さん）の二人はいつも熊さんと共にあった。その理由は簡単である。二十五年ぶりに故郷に帰ってきた我々が、同じ想いを実現させるのに十年かかりそうなところを、よそ者で変わり者（？）の熊さんなら一年で成就させられるかもしれないと思ったからである。

熊さんはどんな時も、人間的弱者・社会的弱者の側に立って考え、発言し、行動する、そして、どんな人に対してもその言動を変えることをしない。私利・私欲が微塵も無く、社会のあらゆる偏見や目先の損得に惑わされる人たちに敢然と立ち向かってゆく。武器は、この国と先進国の人と社会の歴史や制度に対する豊富な知識である。熊さんについてもっと関心することは、その言動が自身からにじみ出るもの、自身に染み付いたものであって、嫌らしいヒーロー気取りを感じさせないことである。これは早稲田の学生時代から秋田に来て生活が安定するまでの理不尽で辛い体験に基づくものかも知れない。

四十数年前、熊さんはこの雪深い湯沢市で人間学習塾“孤客庵”を立ち上げた。受験指導の傍ら、不登校児のサポートや毎週末のボランティア活動（塾の有志を知的障害児施設であるやまばと学園（当時）に連れて行った）を行ったという。この時の体験とそれまでの人生経験から、社会に開かれた障がい者支援施設すなわち障がい者と健常者（と思っている人達）が共に助け合って生きる社会を目標に掲げたのだと思う。

この目標実現のスタートラインにやっと立つことができた。

私たちの想いの全てはここから始まるのである。

長いスプーン親睦会

平成２９年１２月、湯沢ロイヤルホテルにて長いスプーン親睦会を開催しました。１０周年という大きな節目で開催された特別な親睦会です。理事、職員、利用者計３０名ほどが、これまでの活動を振り返り、今後の目標を語り合い親睦を深めました。

食事を楽しみながら、理事、職員、利用者全員が一人ずつ自己紹介をしました。マイクを回して指名されたテーブルから順番に挨拶していきます。明るく元気に自己紹介する人、緊張しながらもしっかりゆっくり挨拶する人…個性あふれる自己紹介タイムになり、入居した時期、経緯、それぞれの、グループホームに対する思いや今後の目標を自分の言葉で語りました。

普段一同に顔を合わせることが少ない理事、職員、利用者が食事を交え会話することができ、沢山の笑顔が見られました。当日体調が悪く参加できなかったメンバーが数名おり残念でしたが、次の機会こそ全員集合できることを願っています。

余興に立候補してくれたのは、カメラーデンⅡに暮らしている最年長の**佐々木正二さん**と、最年少の**柴田涼太郎さん**です。正二さんはアカペラで『さちこ』を歌ってくれました。皆で合いの手を入れて、サビメロは大盛り上がり!!正二さんの堂々とした歌声が会場に響きました。

涼太郎さんが披露してくれたのは、落語の『時そば』です。涼太郎さんはおはなしが上手で、昨年の親睦会では民話を話してくれました。テンポよく、緩急をつけて話す涼太郎さんの落語に、一同すっかり聞き入っていました。

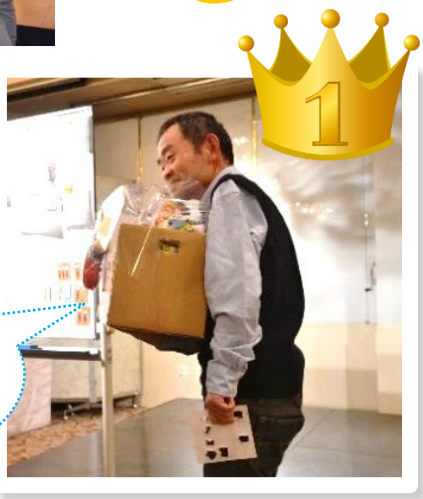
来年の余興は、長いスプーン理事と、カメラーデンメンバーのコラボレーション企画が予定されているとかいないとか…！？楽しみにしています♪

豪華な食事をたのしんだあとは、**おたのしみビンゴゲーム**のスタート！今回は、長いスプーンやカメラーデンにまつわるイラストを入れたオリジナルのビンゴカードを使いました。１位の方には、タオル、ウエットティッシュ、カレンダー、編みぐるみ、貯金箱など、沢山のプレゼントを詰め合わせた豪華景品が当たります。

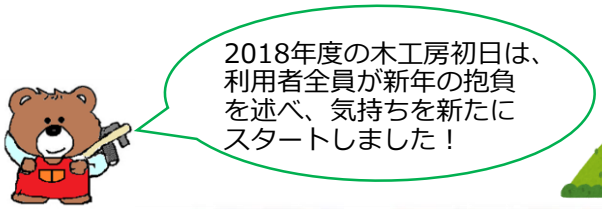
１位決定戦のじゃんけんを制したのは新山晴一さんでした！職員が心を込めて準備したプレゼント、これから沢山使ってもらえたら嬉しいです。

素敵な笑顔をパシャリ📷☆

なんと、一番乗りは2名同時にビンゴ！施設長とじゃんけんをして勝った方が1位になることに…結果は！？



ビンゴゲームは面白かったです。タオルやカレンダーなど毎日使っています！



工房くまごろうに通所するメンバーのほとんどはカメラーデンに入居しており、年末年始は、帰省するメンバー、旅館で過ごすメンバーにわかれます。帰省チームは帰省前に計画をたて、バスや新幹線に乗り自分の力で実家に向かいます。そして家族との時間を過ごし、正月明けにグループホームに戻ってきます。一方、帰省なしのチームはというと、今回はカメラーデンを離れ小安温泉に宿泊しました。温泉にゆっくり入り、普段とは違う非日常を感じられる場所で年末年始の休暇を満喫します。写真は今年度の工房の初日です。自分のことをひとつずつできるようになりたい、一人で帰省の時にバスに乗れるようになりたいなど、それぞれの意気込みを持って一年活動する決意を表明しました。

薪の配達

冬のはじめは、薪の配達も工房くまごろうの仕事のうちのひとつです。夏から秋にかけて皆で割った薪を倉庫に保管しています。注文が入ったら、薪をトラックの荷台に乗せ、配達に向かいます。倉庫から薪を台車に積み、トラックに乗せる一連の作業を職員と利用者で手分けして行います。この日は、横手市まで配達に向かいました。到着し次第、トラックから薪をおろし、配達先の薪置き場に綺麗に積み上げて作業完了です。

雪下ろし作業

カメラーデンの冬は雪との戦いです。雪景色は絶景ですが、日常のこととなると呑気にしてもいられません。工房のメンバーは、積雪の状況を見て除雪を行います。十分に気を付けながら安全に梯子を使い車庫の屋根に上ります。今回、高いところが苦手なメンバーがはじめて梯子を登り切り、屋根の上にあがることができました。他のメンバーたちもその様子に刺激をもらい、皆で喜びを分かち合いました。

薪のご注文を承っております！ご希望の方は、ページ最後の『商品について』をご覧ください。

焼きそばの調理

食工房が一番忙しい時間帯は午前中です。特に、昼食前の1時間は施設内の各部署に昼食を届けるため、各自が得意なことを生かし協力して作業します。焼きそばの作り方は、施設長直伝の方法で、弁当箱に入れても固まらないように工夫しています。大きなフライパンで、ソースを入れる前に十分に炒めて水分を飛ばします。焦げないようによくかき回してひっくりがえし、炒め終わったらソースを混ぜます。大きなボールに移し、仕上げにサラダ油を入れほぐしやすくすれば完成です。現在、焼きそば作りを任されているメンバーは唯一人です。

もう一人のメンバーは、片付けが得意でいつも食工房をピカピカにしてくれます。休憩で使用したカップの洗いもあっという間に終わらせます。細かい作業はお手のもので、ゆで卵カッターで卵を半分にする作業も素早く正確です。

これからの季節は、工房の畑で育つ野菜や、庭で採れるハーブを使用した料理ができるので、作業の幅が広がります。得意分野を生かしながら、皆で色々なことにチャレンジしていきます。

ゆで卵カット

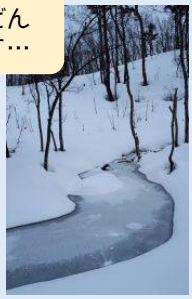
動物の足跡を発見!!

かもしかの足跡　先端が２つに分かれているのが特徴

グループホームを背景に集合写真を撮りました♪

沼の上をどんどん進んでいきます…

野うさぎの足跡は、ギャロップ（跳躍歩行）だと見つけやすいのですが…



山積みの薪が隠れてしまう高さ！！

天気の良い日、工房のメンバーで雪の上を散歩しました。夏場は、水芭蕉が群生する湿地になっており、雪が積もっていなければ足を踏み入れることができない場所ですが『かた雪』になっているこの時期だけは、その上を歩くことができます。

グループホームカメラーデンⅠ・Ⅲ　～皆瀬～

工房くまごろうで一日の仕事を終えたあと、グループホームに帰ります。通院、床屋など予定がある人以外は、夕食までの時間をそれぞれ自由に過ごします。リビングでは、ソファに座ってテレビを見たり新聞を読んだり、ゆっくりくつろいでいるメンバーの姿がちらほら…　自然に人が集まってくるリビングは、グループホームの中心的な場所です。

いつも自発的にグループホームや工房のごみを分別、回収してくれる働き者の谷藤さんです。カメラーデンの住人は、交代でトイレ掃除、風呂掃除、テーブル拭きなどを行い協力して生活しています。

カメラーデンⅠ　リビング

世話人が夕飯の準備をしている間にいつもお皿運びを手伝ってくれる、気配り上手で優しい佐藤さんです。記憶力の訓練として皆の席に水を運ぶことを日課にしているメンバーもいます。ここでは日常生活の繰り返しが大切な訓練になっています。焦らずに少しづつ、できることを増やし、さらなる目標に向かうことができるよう、ひとりひとりのリズムを大切にしながら生活しています。

夕飯は、カメラーデンⅠ（５名）＋カメラーデンⅢ（３名）の合計８名皆揃っていただきます。食事の前に代表して一人が一言コメントをし、いただきますの発声で食事をスタートします。今日の反省、食事の好みなど色々なことを話します。食事が終わったら各自部屋に戻り、就寝まで自分の時間を過ごします。

洗濯は、朝食前に洗濯機を回して、食事のあとに干します。

その頃、カメラーデンⅡでは…

カメラーデンⅡに住むメンバーは工房での作業を終えると送迎車に乗り帰宅します。写真は食材を持ってグループホームに入る様子…カメラーデンⅡの暮らしについては次回の『**咲くさくら坂**』で！お楽しみに～♪

相談支援事業所

カメラーデン相談支援事業所は、平成24年7月1日に開設しました。毎日の生活の中での困ったこと、心配なことを少しでも軽減したり、解決したりするための方法を一緒に考えていくところです。また、希望する生活を実現するために、一つ一つ課題をクリアできるように、必要なサポートを行います。障害福祉サービス等の利用を行う方には、「サービス等利用計画」の作成をとおして、地域での自立生活を支えていきます。

相談の受付は24時間年中無休です。障がい者福祉に関する全てのご相談に応じています。いつでもなんなりとご相談ください。

＊お問合わせ先＊

社会福祉法人　長いスプーン

カメラーデン相談支援事業所

所在地

〒012-0183

秋田県湯沢市皆瀬字桜坂17番地

☎ 0183-46-2064

ふあっくすばんごう

0183-46-2677

めーるあどれす

nagaispoon@bz04.plala.or.jp

カメラーデンメンバー紹介

谷藤　等さん　44歳）

☆趣味は何ですか？　水彩色鉛筆で絵を描いたり、朝と夕方にストレッチをすることです。

☆どんな絵が得意ですか？　作業の絵、景色の絵、昨日の出来事などを毎日描いています。

☆ここでの暮らしはどうですか？　楽しいです。GWやお盆正月の帰省時は、バスを利用して帰ります。地元山内の芋の子まつりや花火大会を楽しみにしています。

☆チャレンジしたいこと　薪運び、畑仕事、草刈り作業の時の草あつめなど力仕事を頑張りたいです。

☆最後にひとこと！これからも体調を崩さないように気をつけて、頑張ります！

六澤　利章さん　32歳）

☆趣味は何ですか？　読書で特に野球の本が好きです。

☆得意なことは？　数字が好きなので計算が得意です。

☆ここでの暮らしはどうですか？色々あるけど、食事が美味しい！作業の方はまだまだなので慣れないといけないと思っています。

☆チャレンジしたいこと　野菜の栽培です。肥料をあげたりしたい。種類はなんでも良いけれど、季節感のあるものを育てたいです。

☆最後にひとこと！　皆瀬に来たら観光を楽しんでください。僕も帰省の時に通りがかる山形や福島を観光できるのを楽しみにしています。

商品の販売について

☆インターネットで⇒

食品　木工

☆FAXやお電話で♪
ご希望の方にはカタログをお送りいたします。

☆定期購入募集中☆
工房くまごろうで製造した食品、食材を毎月お届けします。無添加にこだわった品々です。

販売ページに掲載していない商品についてもお気軽にお問合せください♪

工房くまごろうで作った『無塩漬手作りハム』『本格インドカレー』などの食品や、大物注文家具・小物の『パズル』『鍋敷き』などの木工製品を販売しています♪

サーモン燻製

無塩漬・手作りハム

本格インドカレー

編集後記

先日、朝早くにグループホームの裏の森まで水芭蕉を見に行きました。朝の澄んだ空気と、雪解け水のせせらぎ、木漏れ日が心地よく、自然に囲まれたこの貴重な場所で皆と共に活動できることに改めて喜びを感じました。

さて、４月からは社会福祉法人長いスプーンとしてスタートしています。自然の中で伸び伸びと活動するありのままの様子を、四季折々の景色とともにお届けできるよう広報部も気持ちを新たに頑張って参ります！

新しい環境で心機一転、皆さまの幸福をお祈りいたします。それでは、またお会いしましょう～！

広報部　大庭

グループホームカメラーデン、工房くまごろうの日々の活動の様子や、商品のお知らせなどをブログに掲載しています。

ぜひご覧ください♪

長いスプーンHP ☞

HP URL　http://kameraden-akita.com/